

新年あけましておめでとうございます。

年末から年始にかけての積雪、そして先週末の寒波もかなり厳しく、暴風や低温による交通障害や登下校の安全確保から始業式の日を臨時休業としました。長くなった休みに、終業式にお話した、「感謝の気持ちを言葉とともに行動で表す」ことのできる雪かきを一生懸命行った人もいることと思います。

さて、コロナ禍のお正月はいかがでしたか？感染拡大防止を念頭に、初詣などの外出や大人数での会食を控えましょう、とかなりの呼びかけがありましたので家族の人と家の中で、ゆっくりした人も多かったのではないかと思います。全国的な感染は拡大を続けており、1月7日1都3県に緊急事態宣言が発出されました。中国地方でも感染者の増加がみられますし、島根県でも松江市や出雲市では、毎日のように感染人数が発表されています。今まで以上の意識で、コロナ対策を実施していく必要がありますので、皆さんの協力をお願いします。

ところで今年の干支は、丑(牛)ですね。この動物は、本校にも現在約40頭が飼育されている「生きた教材」ですので、なじみのある動物と言えます。1月1日の日本農業新聞に、3頭の乳牛と5人の動物科3年の生徒の写真が「乳牛の知識深め 実績も」という見出しで掲載されています。この紙面は、JASしまねの企画で2021年は丑年。「牛の歩みも千里」ということわざがある。“努力を怠らなければ大きな成果を上げることができる”例えだ。ことわざのように、新型コロナウイルスに負けず、逆境に立ち向かいながらこつこつと頑張る県内の畜産農家、将来に向かって一歩一歩着実に歩みを進める酪農高校生を紹介する。とありました。本校の他には、奥出雲町の和牛改良組合、隠岐の知夫里島で18歳の女性繁殖農家の後継者、大田市の中山牧場、益田市の松永牧場が紹介されていたので、興味のある人は読んでみてください。

農業新聞にありました、「新型コロナウイルスに負けず、逆境に立ち向かいながらこつこつと頑張る」取り組みは、本校では動物科学科の牛の飼育だけでなく各学科にあります。

まず、植物科学科では、出雲市駅通りフラワーポットの植栽を12月7日に実施しています。これは、草花の栽培について十分な知識が無く植え付け後の管理や、夏の暑さや冬の寒さに耐える種類の選択など困っておられる商店街の方からの依頼もあり、平成30年から実施しています。先日、関係者の方から今後の事業について協定書をつくり継続していきましょう、というお話しを頂いています。

次に環境科学科では、公務員試験に向けて放課後や夏休み中の補習を実施しています。今年度は、受験者が6名と例年よりやや少なかったですが、全員が国家、島根県、出雲市、大田市などに採用を決定しています。また、測量士補という国家試験に向けて2年生より問題集を利用しての勉強を始め、これも補習はもちろん直前には休日返上で頑張っています。今年度の試験は、コロナの影響で実施が大幅に遅くなり11月でしたので、結果の発表は1月18日の予定です。

最後に食品科学科では、GAP学習に先進的に取り組み平成30年には、世界最高レベルのG-GAPを取得しています。今年度は、より実用的なJ-GAPの取得を目指し様々な整備に取り組み、ブドウ栽培での審査を12月24日に受けています。結果は、審査項目128のうち指摘を受けて修正する箇所は、11カ所でした。この数は、少し多いのではないかと思います。筑波より審査に来ていただいた審査官によると、「さすが、G-GAPまで取得されている学校です。軽微なものばかりですので、このレベルまで実施されていることに、敬意を表します」とお話しくださいました。

以上、各学科の特徴的な、しかも継続的な取り組みを紹介しました。冒頭に述べましたように、コロナ禍ではありますが、努力を怠らず真面目にできることをこつこつ取り組むことの大切さをあらためて感じました。今年もこうした取り組みに、声を掛け合いながら行いましょう。地味ではあるかもしれませんが、日頃から生徒の皆さんと先生方、そして地域をも巻き込み一体となって頑張る学校は他にないことだろうと思います。こういった取り組みこそが、出雲農林高校の大きな魅力であると思っております。

2021年「丑年」が皆さんにとって「努力が実を結ぶ」年になりますよう祈念して3学期始業式の訓話とします。